1 教育目標

やる気・優しさ・根気強さのある子どもの育成を図る。

2 学校経営方針

- 自分の課題をもち、意欲的に学ぶことができる子どもを育成する。
- 思いやりをもち、命を大切にできる子どもを育成する。
- 一人ひとりの違いを認め合うことのできる子どもを育成する。
- あきらめないで最後まで責任をもってやり抜く子どもを育成する。
- 自分の健康に関心をもち望ましい生活習慣が身についた子どもを育成する。

3 重点目標

①力がつく授業への授業改善	②基礎基本の充実と自ら学ぶ力の育成
③夢や志に向かって努力する過程の自覚	④いじめゼロの構築
⑤美しい学びの環境の整備	⑥特別支援教育の充実
⑦あいさつ・ありがとう名人	⑧ふるさと教育の充実
⑨ならぬことはならぬ・凡事徹底の育成	⑩キャリア教育の充実～自己評価と他者評価による自己を見つめる目
⑪係や委員会活動など、活動の責任を果たす訓練・充実体験	⑫自分の命・健康を守る
⑬正しい姿勢～立腰の奨励	

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果 (肯定的割合・%)			分析及び改善策	
			児童生徒	保護者	教職員		
			学校経営	教育目標	教育目標を達成している		92
学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	89	97	95			
組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			90			
業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			63			
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	95	87	100	○職員と保護者、児童の評価に差が見られる項目がある。指導したことが児童に身に付いていない、もしくは自覚できていないことも考えられる。指導の工夫と日頃の取組の称賛、通信等での発信も必要である。 ○安心・安全な学校であるためには、いじめ防止対策に対する評価は100%を目指さなければならない。そのための取組を考えることが今後の課題である。そうすることで自ずと「悩みや相談に親身に対応している」の評価も高くなるはずである。継続して丁寧な対応を継続していく。	
		挨拶をよくしている	96	84	100		
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	78	89	95		
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	92	88	95		
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	89	88	95		
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	99	89	95		
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	90	87	84		
特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	97	89	90			
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	95	94	79	○学習指導に対しての教師の自己評価が上がるよう研修を積んでいくことが大切である。自信をもって子どもたちの前に立つことも学力向上のために大切なことである。	
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	94	93	79		
		家庭学習の習慣が身に付いている	93	75	95		
キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	91	81	95	○家庭学習の在り方を検討し直すこと、ICTの活用との関連を図ること、家庭との連携が今後の課題である。		
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	97				
健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	96	89	90	○基本的生活習慣の定着に課題が見られる。児童と家庭には「早寝・早起き・朝ごはん」など継続した指導と啓発を図っていく必要がある。 ○給食指導を見直し、配膳や片付けのルール、食べ方のマナーなど校内で再度共通理解する必要がある。	
		早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	84	84	90		
	体力向上	体力向上に努めている	88	91	90		
食育	食育	食に関する教育活動を行っている	87	93	84		
		安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	97	94	100	○通信やHPの発信については、担当が示した計画を各自で確実に実行する必要がある。 ○教育活動全般で今まで以上に積極的に保護者や地域の協力を得たり情報を発信したりしていくようにする。 ○校内研修の充実、自主的な研修などに学び続けようとする姿勢が大切である。
		情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	89	95	68	
PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	88	93	80			
職員資質向上	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			79		
		環境整備	教育環境が充実し、整備されている	89	95	95	○概ね高い評価となった。引き続き、年休等の取得がしやすい職場づくりや働き方改革に対する取組を継続する。
職場環境	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			95		

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

ほぼ全ての項目について、良い評価をいただいた。
そこで、下記の点において更なる改善策について全職員で検討・協議し、共通理解を図る。

【学校経営】

○業務改善…時間を生み出す工夫、業務の効率化のためのICTの活用、職員の意識改革

【心の教育】

○あいさつについて生活指導担当中心に取り組んでいく。

○「あ・は・は」運動を周知…教室掲示、HP掲載、Tetoruで配信

○いじめ防止…生活アンケートの有効活用、丁寧な聞き取り、日頃からの児童観察、組織で素早く対応

【確かな学力】

○学力向上…教師の資質・能力の向上、南っ子スタンダードの定着、家庭との連携による家庭学習の充実

【健やかな体】

○基本的生活習慣の定着…学校保健委員会との連携、早寝早起き朝ごはんの徹底、アウトメディアなどの取組

【信頼される学校】

○安全・安心…安全点検の徹底、情報発信、誠実な対応

【教育環境】

○働きやすい職場…協力・共創の雰囲気づくり、勤務時間の自己管理

6 学校関係者評価

2月18日に学校評議員（4名）にお集まりいただき、学校評価の結果及び考察と今後の改善策を提示し意見をいただいた。評議員の皆様からは、「肯定的意見がほとんどで、学校や先生方に対する信頼度が伺える。」「地域と連携して学校経営を進められていることがよい。」等の意見が出され、多くの項目について高い評価が得られていることについて、学校の努力を認めていただいた。また、地域・保護者・学校が一体となって子どもたちの健やかな成長のために、これからも協力していくこと、学力向上のために教職員の研修が深まることを期待していること等、応援の言葉をいただくことができた。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

子どもたちの成長のためには、家庭、地域、学校の三位一体の協力が何よりも不可欠であり、学校が提示した現在の取組を継続し、課題に対する改善策を三者協働で実行・実践していく。また、学校だけでは解決できない問題も多くなっているため、専門機関とのより効果的な連携しながら取り組んでいく。

本校の校区は、育友会、育成協、子どもを守るネットワーク、まちづくり協議会、ふれあいセンターなど地域の組織が力強く元気である。そして、それぞれの組織が積極的に活動している。その組織力を生かし、子どもの教育そして、学校づくりをさらに進めていくとともに、地域の活性化にも貢献していきたい。今後とも、子どもたちや保護者・地域との信頼関係をさらに高めるため、積極的に関わり、地域や保護者からの意見や相談等を親身に受け止め、対応できる職員を育成しつつ、学校の体制を整えていく所存である。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合（整数値のみ）を集計する。